

三島駅南口開発事業(広域観光交流拠点・広域健康医療拠点)

アナ: 「市長が語る2018三島」第15回の今日は、「三島駅南口の開発事業」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願ひします。

市長: よろしくお願ひします。

アナ: 三島駅南口のロータリー西側では現在、ホテルの建設工事が行われていますね。

市長: 東急電鉄・東急ホテルズと清水建設により、工事は順調に進んでいます。

今年の秋まで基礎工事が続くので、まだしばらく音や振動、工事車両の出入りがあり市民の皆様にはご迷惑をおかけしますが、引き続き、近隣や駅利用の皆様にご理解いただきながら進めてまいります。地下水の観測調査の結果も問題なく、安定した状態で工事は進んでおります。

アナ: ここで今一度、ホテルの概要を教えてくださいませんか。

市長: 2年後に迫った2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に合わせ、富士・箱根・伊豆の玄関口である三島駅南口の西側に、観光と交流の拠点を整備するものです。東急電鉄及び東急ホテルズが、地上14階建の客室数約200室のホテルを核とする施設を建設・運営します。ホテルには、地元特産品を扱う店舗や箱根西麓三島野菜を使った料理を提供するレストランなどの出店も計画されています。開業は2020年6月の予定です。完成をぜひ、楽しみにしてください。

アナ: 三島駅南口は、新幹線駅の駅前の一等地でありながら、これまで長い間、平面駐車場としての暫定利用のまま、十分な活用がなされていませんでした。ようやく三島市の顔となる駅前の整備が動き出したわけですね。

市長: 駅前の再開発を検討し始めたのが、昭和62年です。

30年を超える長きにわたって、三島市の、ひいては伊豆半島のフロントエリアとしての在り方を議論し、事業化の検討に取り組んできました。紆余曲折を経て、平成24年に市民の皆さんと作り上げたのが「三島駅周辺グランドデザイン」です。この基本構想にもとづき、南口西側にはガーデンシティを象徴する「広域観光交流拠点」を、東側にはウエルネスシティを象徴する「広域健康医療拠点」を、それぞれ整備するため、事業を展開してきました。

それが少しずつ、目に見えるように現れてきたところですね。

アナ: 今年度早々、4月には駅南口東側についても、事業協力者の候補となる企業体選ばれたという、うれしいニュースがありました。

市長: 南口東側は、ウエルネスフロントとして「広域健康医療拠点」を整備するため、再開発事業という手法を採用します。大変専門性の高い大規模な事業ですので、十分なノウハウや実績と資金力があり、何より三島市の未来を共に考えてくれるパートナーの協力を得ることが事業成功の鍵となります。

そのパートナーの候補に、ミサワホーム株式会社を代表企業とする
「アスマチ三島プロジェクト共同企業体」が選ばれました。

アナ： なるほど、これからが非常に楽しみです。具体的にはどのような施設ができるのでしょうか。

市長： 候補となった事業者から、医療施設や商業店舗、共同住宅やホテルが提案されていますが、これは最終的なプランではありません。事業者との協議が整い、正式にパートナーとして決定しますと、三島駅周辺グランドデザインを踏まえながら、事業者の提案内容をたたき台としていよいよ具体的なプランの検討に入ります。その際には、市民説明会やワークショップ等により市民や関係団体の皆様のご意見やご要望を伺いながら、事業計画案を作成していきます。

アナ： あらためて、三島駅南口の整備についてどのようにお考えでしょうか。

市長： 中心市街地全体から見ますと、駅前の東西街区を合わせても1%程度のエリアですが、西街区のホテル建設、東街区の再開発事業により、駅前の魅力が向上することで、このエリアの潜在的な土地の価値が引き出されます。その効果は周辺市街地にも波及し、地域活性化につながっていくでしょう。また、東街区の再開発事業は都市計画事業として、災害に強いまちづくりや都市機能の更新を含む公共性の高いものです。その一方で、整備された再開発ビルは一般の不動産と同じく、市場での評価に耐えうる収益性の有るビルでなければ生き残れません。完成後のビル運営もとても重要です。加えて、将来にわたって快適で豊かな三島市を創るためには、ソフト的な取組の展開も非常に重要です。

アナ： 私たちも市民として、この事業に協力していきたいと思えます。

市長： ぜひ、前向きなご意見、ご提案をお聞かせください。三島駅周辺グランドデザインの実現に向けて、ともに力を合わせて、取り組んでいきましょう。皆さんに関心をもつていただくことが、この事業を成功に導く第一歩です。

アナ： 豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。